

事業コード	H17-建-継-08		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	道路改築(バイパス)		班 名	県道・市町村道班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(一)払戸箱井線		担当課長名	中山敏夫
箇所名	男鹿市角間崎		担当者名	主幹(兼)班長 水木清博
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	04	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県道改良率

1. 事業の概要

事業期間	H15 ~ H18 (4年)		総事業費	6.9億円	国庫補助率	0.55	
事業規模	延長L=1,860m 幅員(構成)W=11.0m(2.5-1.25-6.0-1.25)						
事業の立案に至る背景	<p>本路線は、寒風山をはじめとする男鹿国定公園への観光道路としての機能を有するとともに、緊急輸送道路になっており、産業物資や生活物資の輸送を支援する重要な路線である。</p> <p>しかし、現況は、幅員狭小(車道幅員4.0m)で急坂路(最急勾配10%)の箇所が存在するため、大型車のすれ違いが困難な状況であり、冬期交通の安全性が確保されていない。また、通学路でありながら歩道もなく、交通安全上大きな問題を抱えている。</p> <p>このため、生活道路として円滑で安全な交通を確保するため、道路整備を行うものである。</p>						
事業目的	<p>安全な生活環境の確保(通学路における歩道未整備の解消)</p> <p>地域づくりの支援(市町村合併)</p> <p>冬期末改良区間の解消</p> <p>道路の防災対策、危機管理の充実(第2次緊急輸送道路)</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	700,000	690,000	-10,000			
	経費内訳	工事費	561,000	550,000	-11,000	切土法面処理工法の見直し等	
		用補費	92,000	94,000	2,000		
		その他	47,000	46,000	-1,000		
	財源内訳	国庫補助	385,000	379,500	-5,500		
		県債	300,000	296,000	-4,000		
		その他	0	0	0		
一般財源		15,000	14,500	-500			
事業内容	調査・設計 改良 舗装	調査・設計 改良 舗装					
事業の進捗状況	用地買収が完了し、改良工を推進している。						
事業推進上の課題	特になし						
関連する計画等	あきた21総合計画における「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業						
情勢の変化及び長期継続の理由	H17.3.22に旧男鹿市、若美町が合併して、男鹿市となった。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	通学路の歩道設置率					
	指標式	設置率(設置済延長/通学路延長)					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	55.6 %		データ等の出典	道路現況調査		
	実績値 b	31.5 %					
達成率 b/a	56.7 %		把握の時期	平成17年7月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	通学路指定路線となっており、児童の安全確保のため、早急な整備が必要である。当該区間は、屈曲部及び急勾配(最大縦断勾配10%)の交通隘路箇所が存在しており、冬期交通の安全確保のため早急な整備が必要である。	12点
緊 急 性	通学路であるにもかかわらず、幅員狭小で歩道もなく、通学児童が常に危険にさらされているなど、生活道路としての機能を果たしていないため、当該区間を早急に整備する必要がある。 市町村合併支援道路としての位置付けもある。	12点
有 効 性	緊急輸送輸送道路の指定路線であり、災害や救急医療施設のアクセス道路としての活用も見込まれ、防災計画上の重要路線である。	23点
効 率 性	事業の費用便益比は、1.85であり、効率性は高い。 ・総費用の現在価値 779百万円 ・総便益の現在価値 1,439百万円 計画日交通量も3,900台となっている。 事業費については、切土法面処理にリサイクル材を活用した工法により検討する等コスト縮減に努めている。	20点
熟 度	用地買収が完了している。 工事も平成18年度完成予定であり、事業進捗の熟度は高い。	18点
判 定	ランク () 緊急輸送道路の一部でありまた、地域住民の重要な生活道路であるとともに、すべての項目で評価点が高いことから、安全な生活環境の確保及び冬期末改良区間の解消のため、引き続き事業を実施すべきである。	85点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止	
	事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の総合評価を可とする。

評価種別 継続箇所評価

事業コード(H17-建-継-08)

適用基準名 道路改築事業(地域内・生活圏交通促進)

箇所名 (男鹿市角間崎)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	8	8	
	・車道幅員 < 5.5m	2箇所	6		
	・最小半径 < 100m	1箇所	4		
	・最急勾配 > 5%	0箇所以上	0		
	・冬期堆雪巾なし				
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	7	4	
	・現道の混雑度 1.0	4件該当	6		
	・現道の旅行速度 30km/h	3件該当	5		
	・現道の事故率 50件	2件該当	4		
・通学路指定で歩道なし	1件該当	2			
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0			
計			15	12	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無	あり	4	4	
	・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	3	3	
		位置づけなし	0		
	交通量	増加している	3	0	
		増加していない	0		
特有の課題の有無	あり	5	5		
・老朽橋、災害危険箇所、 ・冬期通行不能区間等	なし	0			
計			15	12	
有効性	道路の位置づけ				
	生活圏30分形成道路等	該当する	7	0	
		該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	7	7	
		該当しない	0		
	地域防災計画に重要な道路	該当する	7	7	
		該当しない	0		
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	9	9		
	低下傾向	6			
	必要性が低い	3			
計			30	23	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)	1.0以上	5	5	
		0.5以上~1.0未満	3		
		0.5未満	0		
	計画交通量	1,000台/日以上	5	5	
		500台/日以上~1,000台日/未満	4		
		300台/日以上~500台日/未満	3		
		300台/日未満	0		
	コスト縮減	あり	5	5	
		なし	0		
事業中止による影響	既投資額の損失大	5	5	e t c 大規模バイパス e t c 部分的ミニバイパ e t c 現道拡幅	
	既投資額の部分的損失	4			
	既投資額の損失が少ない	3			
計			20	20	
熟度	事業の進捗進捗状況				
	事業の進捗(事業費)	8割以上完了	10	8	
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
		1割未満	2		
	用地買収の進捗(面積)	8割以上完了	10	10	
		5割以上完了	8		
	1割以上完了	5			
	1割未満	2			
	未着手	0			
計			20	18	
合計			100	85	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		